

団体名	三河材の普及を目的とした木育プロジェクトチーム
説明文	<p>私たちは地元で生産される木材の地産地消に貢献することを目的に、三河産のヒノキ材を用いて製作したおもちゃを市内の公共施設、商業施設内にて配布しました。製作・配布したおもちゃは豊橋総合動植物公園のんほいパークに由来する動物・恐竜をモチーフとしており、積木や形はめといった遊び方を想定してデザインしています。（写真1）また、製作にはメイカーズラボとよはしに設置されているレーザー加工機を用いることで、木材を使いながらも自由な形状を正確に切り出すことを試みました。</p> <p>製作したおもちゃはアピタ向山店（2020年2月9日）とこども未来館ここここ（2月15日）にてワークショップを実施した際に子供1人につき1セット配布しました。ワークショップでは、立ち寄っていただいたご家族に対して、お子様には木製のおもちゃに実際に触って、遊んでもらい、親御様には三河材や木育、本団体の活動をご説明した上でアンケートにお答えいただきました。（写真2,3）</p> <p>アンケートではお子様の年齢や普段遊んでいるおもちゃについて、木製おもちゃの購入頻度など5つの質問を設けました。2日間で計71組のご家族に参加していただき、そのアンケートよりワークショップに興味を持っていたのは2~3歳のお子様連れのご家族の割合が高いことやお子様が普段遊ぶおもちゃはカラフルなプラスチック製であり、ブロックのように自分の思い通りに組み合わせるものが多く、半数以上のご家族が木製のおもちゃを購入したことがないといった回答を得ることができました。また、ワークショップ中には、製作したおもちゃに対して動物・恐竜だけでなく様々な種類を展開してほしい、子供が形はめとして遊ぶには力があるため、はまりやすくしてほしいといったご意見をいただきました。</p> <p>これらの結果及びワークショップ中のご意見より、今回製作したおもちゃは想定していた年齢層に興味を持ってもらえたが、形はめとして遊ぶには想定年齢以上の力を必要としてしまったこと、木製のおもちゃを購入したことはないが、木製おもちゃに関心のあるご家族が多いことが分かりました。</p> <p>2020年度の活動では、今回ワークショップに使用した木製おもちゃの改良と他種類の展開、アンケートの回答を参考に、ブロックのような思い通りの形を作ることのできるおもちゃの開発を試みます。</p>



1 : 木育おもちゃ



2 : アピタ向山店



3 : ども未来館ここにこ